

虐待が発生した場合に Uビジョン研究所が支援します



公益財団法人Uビジョン研究所

東京都渋谷区渋谷1-3-18 ビラ・モデルナA-405

虐待が発生してしまったら、初期対応が重要です。

まずはご相談ください

Tel 03-6904-4611

E-Mail u-vision@diary.ocn.ne.jp

基本的に下記の流れで支援を行います。

事実確認



独自調査



改善・実施計画

事実確認

初期対応 発生・気づきから2日以内

- ・ 身体的虐待を疑う場合は、利用者の状態にも寄るが、医師の診断→警察へ通報。あるいは、直接、警察へ通報同時に医療機関で受診。虐待と医師が判断した時点で家族・自治体に連絡する。
- ・ マスコミ対応を検討する。
- ・ ネグレクト、心理的・精神的虐待、性的虐待、経済的虐待は直ちに事実確認を行い自治体にまず一報する。
- ・ 全職員を集めて説明。

Uビジョン研究所に電話かe-mailで相談

独自調査

独自調査 発生から5日以内

- ・ 独自調査体制を作る（自治体からの調査とは別）
- ・ 独自調査の報告（家族、自治体、必要に応じて警察など）全職員に経過説明

Uビジョン研究所が独自調査の協力、報告書作成を行う

改善 実施計画

改善計画・実施工程・結果報告

- ・ 自治体の指摘事項に基づいて作成
- ・ その他、組織体制や教育体制、防止のための取組みを全職員で共有、家族へ説明

Uビジョン研究所が報告書作成に協力。教育研修の実施や組織の見直しに協力
必要に応じてUビジョン研究所が家族への説明に協力

Uビジョン研究所支援の実績

事例① 職員が地域包括支援センターに虐待していると通報したことにより、自治体から第三者機関の調査協力を得て改善計画を作成するよう求められたことでUビジョン研究所が調査依頼を受けた。



Uビジョン研究所の調査・支援内容

- ・ 内部調査（虐待を受けたと思われる利用者に関係するケアプランなどの書類、ケース記録・事故報告書などの確認、ヒヤリング）
- ・ 調査報告書作成・提出及び説明
- ・ 改善計画書作成（教育研修計画、防止のための取組み内容と実施工程作成）

事例② 研修中、入居者が身体の痛みを訴えたため、看護職員が全身を確認した後、医療機関を受診。医師から肋骨が6本折れていると報告があり、外部からの衝撃や圧迫によるものと説明を受けた。医師が警察に通報。



Uビジョン研究所の調査・支援内容

- ・ 医師の診断内容を家族に報告し謝罪すること。自治体へ一報いれるよう法人にアドバイス。
- ・ 全職員に虐待の疑いについて内容を説明。マスコミ対応を検討。警察から事情聴取など受ける。
- ・ 内部調査スタート。虐待を受けた人のケース検討、職員のヒヤリング、夜間のカメラ確認→報告書作成。→法人本部、警察、自治体へ報告書を積極的に提出・説明。家族へ調査内容の報告説明。

事例③ 虐待が発生しメディアで報道。自治体の調査・指導を受け、改善計画を作成し受理された。しかし、家族が告訴。職員の退職者が増え、一方、募集にも応募がない現状。改善計画書は提出したが現場の改善は進まず、虐待の疑いのある事案がその後も何件か発生。改善や指導方法がわからないということで理事長から相談、協力要請。



Uビジョン研究所の調査・支援内容

- ・ 虐待だけでなく組織全体の課題を明確にするために、施設評価（夜間調査含む）を実施。課題の分析、課題解決のための取組みを提案。
- ・ 月2回の指導研修を実施。組織体制の見直し、職員の労働環境の見直し。組織体制の整備は職員と話し合い、協力体制を作って進めた。コンプライアンスの順守徹底。労働環境は手当の基準の改正・福利厚生レベルアップ。職員と6か月間の人材確保戦略で良い人材の採用が進み始めた。

虐待の発生による影響

行政処分・罰則の公表 / 人材確保がより厳しくなる / 入居者の減少

経営困難になる前に……